

## 注目企業① 株式会社ガイアックス

## 企業へコミュニティサービスを無料で提供 テレビやラジオとのメディアミックスを進める

### HP系コミュニティサイトNo.1

ガイアックスはコミュニティの中でも無料ホームページを中心としたコミュニティに特化、そのシステムのOEM提供をしている。コミュニティに登録したユーザー1人1人が自分専用の掲示板、日記帳、カレンダー、アクセスログ解析といったツールを持つことができる。1999年5月の創業以来、着実にユーザー数、クライアント数を増やしており、2000年5月現在ユーザー数36万人、クライアント数は80社を超え、ホームページ系コミュニティでは最大手に成長した。

### GCS導入企業のメリット

このコミュニティサービスのアウトソーシングをガイアックスコミュニティサービス(GCS)と呼んでいる。GCSはそれぞれの企業に合わせたコミュニティのプロデュースから運営、メンテナンスまでを一貫して行っており、GCSを導入したクライアント企業にとっては下記のようなメリットがある。

#### ①メンテナンスが簡単

システムメンテナンス、ユーザーからの問い合わせ対応、不正な書きこみチェックなどの運用もすべてガイアックスが行うため、クライアント企業はサービスのト

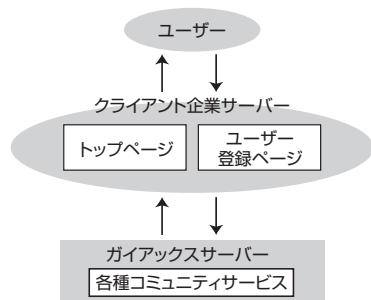


図1 GCSの仕組み

ップページやログインページを各クライアント企業のウェブサーバーに置くだけでよい。また、コミュニティ部分はガイアックスのサーバーに置き、ここには自動的にガイアックスからバナー広告が配信されるため、この広告収入によりGCSは無料提供される。

#### ②サイトへの定着率アップ

一方通行の情報提供に比べ、ユーザーのサイトへの帰属感が増し、サイトへの定着率が高まる。

#### ③トラフィックの増加

コミュニティの全ページに既存サイトへリンクが張られるため、既存サイトへのトラフィック誘導が見込める。

#### ④ユーザーからユーザーへの波及

ネットならではの伝播力でユーザーがユーザーを呼び、コミュニティが自然と拡大する。

コストのかからないユーザーサポート手段や企業のイメージアップ、新しいブランド構築の手段、物販、その他のサービス受注の窓口など、GCSの活用場面は無限大といえる。

### 中小企業向け新サービス

インターネットに手を出したい、顧客をもっと囲いこみたい。しかし、一体どのようにしたらいいのか。莫大な費用がかかるのではないか。このように思っている飲食業やアパレルその他中小企業の社長の声をよく耳にする。

これらのニーズに答える形で5月から中小企業向けにコンサルティング機能を含んだ総合的コミュニティサービス「Link with U」(リンク・ウィズ・ユー)という新サービスを展開することになった。

こちらは従来のGCSにメールマガジンやバナー広告のサービスを加え、コンサルティング機能を強化した有料コミュニティ

サービスである。既存のDMやマーケティング、折り込み広告に比べると、その費用も月額3万円からと非常に安価に設定している。

代理店経由で営業展開し、年内3000社への導入を目標にしている。

### メディアミックス展開

現在ガイアックスは日本国内だけでなく、海外進出も視野に入れて動いている。2000年2月にはシンガポールのベンチャー企業、メディアリング社とシンガポールに子会社を設立。5月にはガイアックスUSAも設立し、さらに韓国の最大手ポータル会社ダウムコミュニケーションズ、同韓国の最大手インスタントメッセージング会社UINによるジョイントベンチャーを日本に設立した。

また、既存メディアとの連動も考えている。たとえば昨年大ヒットした映画「ブレアウィッチプロジェクト」はウェブからの口コミ効果が大きかった。2000年のゴールデンウィークに公開された「アナザヘヴン」という映画にこの手法を使い、現在、テレビ・インターネットと連動したメディアミックスを行っている。

またニッポン放送にチャットシステムを導入したり、2000年6月からインターFMの協力で、アーティストとしてのKONISHIKI (KMS:KONISHIKI Master of Sumo) のネット上でのプロモーションをメインにしたラジオとインターネットの連動を企画している。

コミュニティサービスを柱とし、今後こういったメディアミックスを展開していきたい。

(上田祐司 株式会社ガイアックス代表取締役)

#### 企業データ

1. URL: <http://www.gaiax.com>
2. 設立: 1999年5月10日
3. 資本金: 3050万円
4. 従業員数: 50名(アルバイト含む)



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)